



グローバル人材の育成を目指して

# 英語で伝わるうれしさを実感

— 小・中・高連携のモデル事業を実施 —



市は、平成26年度に新潟県教育委員会から「ハブスクール事業」の指定を受けました。そのモデル校として、村上高等学校を拠点（ハブ）に村上第一中学校、村上南小学校の3校が連携。3年間に渡り、グローバル人材の育成に向けた児童・生徒の英語力の向上に取り組んできました。

この事業では、

①学ぶ意欲とコミュニケーション力の向上を目指す  
授業改善

②「ふるさと村上」の魅力を英語で発信すること

の2つを柱として行ってきました。

この事業の主な取り組みと成果を報告します。

村上第一中学校

村上南小学校



①学ぶ意欲とコミュニケーション力の向上を目指す  
授業改善

小学校、中学校、高校の先生方が、それぞれの英語の授業を参観し合い、指導方法について協議し、指導力の向上に努めました。

英語の授業をほぼ英語で行う高校や中学校と、ALTと協力しながら、さまざまな活動で意欲を喚起する小学校では授業の実態が違います。しかし、それぞれの立場から授業を見合っ

ハブ  
HUB

村上高等学校

とで、今後の英語などの外国語授業の指導の仕方や連携のあり方について、考えを深めることができました。

小・中学校の生徒とたくさんふれあうことができて良かったです。3校で協力して、いいところを出しあえたことで、大きな成果が残せたと思います。今後も連携を深めていきたいですね。



江見志歩 教諭  
(村上高等学校)





▲ALTや留学生に村上木彫堆朱を英語で紹介する児童・生徒



▲高校生の公開授業



▲自作の英語カルタで留学生と交流する3校の児童・生徒



▲塩引き鮭づくりを通じた交流体験(村上南小学校)

平成27年度には、地域の人の協力を得ながら、毎年10月に行われている「竹灯籠まつり」に、留学生やALTを招いて交流活動を行いました。村上について調べたことをもとに小学生が、カルタの絵ふだを作成。中・高校生が、クイズやマップを作つて留学生と楽しく交流しました。その後、小・中・高校生とALT・留学生が混合の小グループを作り、町屋を案内。この案内をする中で、積極的に英語で村上を紹介しようとする姿が、多く見られました。

今年度は、11月18日に村上南小学校で、新潟大学の留学生を招いて「塩引き鮭づくり」を行

## ②「ふるさと村上」の魅力 を英語で発信すること

いました。4年生と留学生が、地域の人に教えてもらいながら、村上の伝統料理である塩引き鮭づくりに挑戦。初めて作る塩引き鮭に歓声を上げながら、自然に留学生とかかわる様子が見られました。

## ◆プレゼンテーション (プレゼン)

これまでの3年間の成果を発表するため、村上高等学校を会場に、「ハブスクールフォーラム」を2月1日に開催しました。村上南小学校の4年生54人が歌を交えた活動報告を、村上第一中学校の3年生6人が村上の名産や名所を、村上高等学校の生徒3グループが国際理解や村上の魅力などを英語を使ってそれぞれ発表。



▲英語で村上の魅力を発表する村上第一中学校3年生(ハブスクールフォーラム)



▲小・中・高校生が作成した英語版観光マップ

市内外の多くの先生方にこの活動の成果を広めることができました。

グローバル人材の育成に向けた英語力の向上は、今後一層求められます。そのための取り組みとして、市では、今年度から中学生を対象に英語検定受験料の全額助成を行っています。この助成により、検定受験者が昨年度以上に増加しました。

今後もハブスクール事業の成果を生かしながら、児童生徒の英語力の育成、学習意欲の向上に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

## ●問い合わせ

学校教育課教育総務室  
72・6882

塩引き鮭を留学生と一緒に英語で話しながら作って楽しかったです。これからも外国の人とふれあって、外国の文化を学んでいきたいです。



小出 賢さん  
(村上南小学校4年生)

村上のことを英語で伝えるのは難しかったけど、伝わったときはとてもうれしかったです。この経験を将来に生かしていきたいです。



英語で村上の魅力プレゼンした  
村上第一中学校3年生6人組

プレゼンで、これまでの活動を英語でちゃんと伝えることができ良かったです。村上に外国の人がいたら積極的に話しかけたいです。



英語で「3つのサケ」をプレゼンした  
村上高等学校2年生3人組